



タレント・ふくいブランド大使
パトリック・ハーラン
(パッくん)

パトリック・ハーラン (Patrick Harlan) さん

1993年来日し、福井県で英会話学校の講師として2年半を過ごす。現在は面白いコンビ「パッくんマッくん」として、テレビや舞台など多方面で活躍中。



「教育・子育て日本」

— 昨年は教育分野で子どもたちが立派な成績を収めましたね。

知事 福井県の子どもたちは、「全国学力・学習状況調査」で2年連続で全国トップクラスの成績を収めました。これは子どもたちや学校の先生はもちろん、家庭や地域の支えなど、いろいろな方の努力によって成し遂げられたものです。また、サイエンス教育や白川文字学をはじめとする本県独自の教育や、少人数学級、学校ボランティアの配置といったきめ細やかな教育などの効果でもあると思います。



↑ 家族の交流の場として昨年オープンした「福井県子ども家族館」

より楽しみや 喜びのある福井に

— 最後に、今年の抱負をお願いします。

パッくん 2009年を、「福井イヤー」にしたいですね。僕もより一層福井のために頑張りたいと思いますし、何より、福井人としての知名度を上げて、パッくんという「あ、福井の人ね」と言われるようになりたいですね。

知事 とても頼もしいお言葉ですね。私としては、現在、経済状況が厳しいですから、まずは中小企業や雇用の対策に全力を挙げていきます。また、昨年末に新幹線の方針が出ましたが、できるだけ早く敦賀まで整備できるよう取り組まなければなりません。それから、観光や農業、環境といった大きな課題に積極的に対応し、福井がもっと全国に知られるように、「住みやすく、楽しくて、喜びのある福井県」を目指したいと思っています。



新春対談 2009

ふるさと福井を
元気にしまSHOW!



NEW YEAR
SPECIAL
PLAN

09

「ふるさと納税」で福井を元気に
— パッくんは、よく福井にいらつしやるのですか。

パッくん 年に数回は必ず帰ります。福井は第二のふるさと。子どもにはお盆や正月に帰る田舎が必要ですから、それを福井にしようと思っています。

— パッくんのふるさと福井に対する思いが伝わってきますけど、ふるさとに寄せる思いが形になるのが、知事が提唱された「ふるさと納税」ですね。

知事 ふるさとに恩返しをしたいという気持ちを形にできるのが、「ふるさと納税」です。住民税の一部をふるさとに寄付という形で応援ができる制度で、基本的に、都会に住んでいらつしやる方が地方の応援をしようというものです。

福井県は毎年3000人くらいの若者が進学等で都会に出て、戻ってくるのは約1000人。2000人は、18年間一生懸命応援しても、働かれる時に、税金として戻らないんですね。それをうまく支えていこうという意味もあります。

パッくん 僕も福井を応援したい気持ちがあります。僕も福井を応援したい気持ちがあります。僕も福井を応援したい気持ちがあります。

知事 今後は、「ふるさと納税」制度を充実させるとともに、最終的には、福井へ移住する「新ふくい人」を増やす施策を強めていきたいと思っています。

「笑い」を政策に

— 県では施策の中に「笑い」を取り入れているということですが。

知事 「笑い」をマニフェストに取り入れているのは私くらいでしょうか。現在、「笑い」の研究が盛んな関西大学と連携して、県民の健康づくりを進めています。また、「ちりとてちん」をきっかけに、福井を「女性落語発信の地」にしようとして、昨年、全国初の女性だけの落語大会を開催しました。優勝された方もいよいよプロになるということで、今後さらに発展させていきたいですね。

パッくん 「笑い」というのは、ふざけるとかではなくて、本当に明るくする真面目な仕事だと思っんですね。英語にも



↑ 昨年開催した「ちりとてちん」杯ふくい女性落語大会



福井県知事

西川 一誠

「笑いは良薬」という言葉がありますが、みんなが笑顔で楽しみのある生活が、健康長寿につながると思います。